神栖市社会福祉協議会

どなたでもご自由に参加できます。
神栖社協ホームページにも掲載中！

地域ネットワークニュース

～平成２９年６月の勉強会のお知らせ　＆５月の勉強会報告～

第233回　地域ネットワーク勉強会

「乳幼児期から児童期の発達段階と発達が気になる子の理解」

６月２９日(木)
午前10時30分
～午後２時30分
神栖市保健･福祉会館
１階　集会室Ｂ

午前の部（10:30～12:00）：生まれてからの生育・成長過程
午後の部（13:00～14:30）：発達が気になる子への理解と支援

講師：穂積妙子 氏（臨床発達心理士）
つくば子どもと教育相談センター代表／神栖市子育てカウンセラー相談 相談員

乳幼児期は、人生の中で最も成長・発達が著しく、この時期獲得した能力が生涯発達の基盤となります。発達には一定の順序（階段）があり、時期に適した発達課題を一つひとつ達成していくことで、その階段を登っていくことができます。それぞれの時期にどのような発達の課題があるのか、子育てに関わる人たちが知っておくことは有意義なことだと言えます。

今回の勉強会では、午前中に乳幼児から児童期の発達段階とその道筋、午後は生まれつきの脳機能の障害である発達障害の特性と年齢に応じた支援のポイントをお伝えします。子育てに悩みはつきものですが、子どもには年齢相応の発達段階がある事を知ることで、子どもの行動に納得できることが多々あります。

子育て中のママ・パパ、保育士等子育てをサポートしている支援者、子どもの発達に関心がある方々など、みなさんの参加をお待ちしています。

※今月はファミリーサポートセンターが実施する「子育てサポーター養成基礎研修」と合同開催となっています。
※昼食は各自でご用意ください。午前もしくは午後のみの参加も可能です。

※当日は勉強会会場内に情報提供･紹介コーナーを設けています。福祉や医療に関する事業所のパンフレットやチラシ、研修会案内などありましたら是非ご持参下さい。ご参加頂く皆様からの情報をお待ちしています。
申込･問合先：神栖市社協　地域福祉推進センター　担当:三浦　電話 0299-93-0294

第232回　地域ネットワーク勉強会報告

平成29年5月25日開催
<参加者34名>

「うつ病と五月病の違い～早期発見・治療の重要性～」

講　師：児玉知之 氏　【児玉医院 副院長／精神保健指定医】

五月病とは正式な医学用語でなく、診断名に当てはめるならば適応障害にあたります。はっきりと確認できるストレス因に反応する形で、めまい・頭痛・動悸・不眠・食欲低下といった身体の不調と、抑うつ気分・いらいら・集中力低下・意欲低下といったこころの不調など、様々なバリエーションがあります。適応障害は、うつ病の初期症状と類似点が多く、区別がつきづらいですが、半年以上は長引きません。この状態が2週間以上続く場合は、早めに医療機関への受診が必要です。

また、早めに受診するタイミングとして、自分や家族が判断できる指標は２つあります。１つ目は睡眠できるかどうか（寝つきが悪い、途中で起きてしまうといった不眠状態）。２つ目は食欲があるかどうか（好物を食べてみて、美味しく感じないといった状態）です。睡眠・食欲だけに問題がある状態は希で、適応障害や初期のうつ病の可能性があり、早めの受診が必要となります。

うつ病の人との接し方として、何らかのアドバイスをしてしまう「聞く」というより、相手の言い分を受容できるだけ否定しない「聴く」という姿勢が大切です。